



令和元年9月18日
海上保安庁

一人でも多くの命を救い、美しい海を守るために
～海外の海上保安機関実務者を対象とした
「救難・環境防災コース」開催～

海上保安庁は、9月24日から約2か月間、独立行政法人国際協力機構（JICA）の枠組みのもと、開発途上諸国の海上保安機関職員に対し、国連・国際海事機関（IMO）が定めるモデルコースに準拠した、救難・環境防災に係る知識・技能の向上のための研修を実施します。

本研修は、我が国の技術協力プロジェクトに基づき、昭和57年から実施され、昨年までにアジア諸国を中心に64か国2地域から536名の研修参加者を受け入れています。本年度は9月24日から11月15日までの間、10か国から14名の海上保安機関職員を招へいして行われます。

この研修期間中、海上保安庁の施設等において、搜索救助手法、油防除にかかる初動対応、現場指揮など救難・環境防災に関する知識・技能を学び、帰国後それぞれの国の海上保安業務の発展に役立てていくことが期待されます。

当庁は、本研修参加者が、これらの講義・実習を通じ、一人でも多くの命を救い、そして美しい海を守るために必要な海難救助・海上防災能力を習得することで、世界の救難・環境防災体制の強化に貢献しています。

研修の概要等は以下のとおりです。

1. 主な研修内容

- (1) 搜索救助、海上防災、環境保全等に関する講義及び実習
- (2) 海上保安庁等の施設及び巡視船艇・航空機の視察
- (3) 津波防災に関する訓練視察

2. 研修員：10か国14名

ジブチ、東ティモール、モルディブ、パプアニューギニア、フィリピン、ソロモン諸島、スリランカ、ベトナム：各1名

マレーシア：2名

インドネシア：4名



写真1 油・水質分析実習



写真2 搜索救助通信訓練



写真3 オイルフェンス展開実習



写真4 油回収実習